

目次

1. はじめに

2. 令和5年度事務の点検及び評価

施策1 体力・学力を高める教育・保育の推進

運動の楽しさを感じる取組の充実	2
主体的・対話的で深い学びの実現	4
情報活用能力の育成	6
食育による健やかな心身の育成	8

施策2 社会性と豊かな心を育む教育の推進

心の教育の充実	13
キャリア教育の推進	16
読書活動の充実	18
郷土愛を醸成する教育の推進	20

施策3 家庭、学校・園、地域の連携の推進

親育ち支援事業の充実	23
青少年健全育成事業の推進	26
学校運営協議会の活性化	27
各種団体と連携したジュニアクラブの推進	28

施策4 多様な課題に応じた支援の推進

いじめ・不登校の未然防止と対応	30
特別支援教育における支援体制の充実	35
個々の教育的ニーズに応じた支援	38
学童保育（たじっこクラブ）の充実	40

施策5 学びを支える教育環境の充実

幼保小中一貫教育の推進	43
教職員の働き方改革の推進	46
安心・安全な教育環境の確保	48

【参考】第2回教育行政評価委員会(令和6年3月実施)における意見 51

3. 教育委員会会議の付議事項について

1. はじめに

平成19年6月に、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、教育委員会は、毎年、その教育行政事務の管理執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとされました。この法の趣旨に則り、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民に対する説明責任を果たすため「令和5年度多治見市教育委員会の事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」を実施し報告します。

(1) 点検及び評価の方法

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を実施するため、多治見市教育行政評価委員会を置いています。教育について優れた見識を有する方に委員の委嘱をし、次に掲げる事項について所掌いただいています。

- ・点検及び評価の実施に関すること。
- ・その他点検及び評価を実施するために必要な事項に関すること。

<多治見市教育行政評価委員会委員（敬称略）> 任期：令和4年4月～令和6年3月

氏名	職業	備考
石井 拓児	名古屋大学教育発達科学研究科教授	委員長
安田 悦子	元笠原小学校長	副委員長
鈴木 耕二	会社役員	
鈴木 亜紀子	行政書士	R4.4～R4.9
中澤 香代	元教育委員	R4.10～
三和 義幸	多治見西高等学校職員	

(2) 点検及び評価の内容

教育委員会は、教育基本法（平成18年法律第120号）第17条第2項の規定により、「第3次多治見市教育基本計画」（期間令和5年度～令和9年度）を定め、その計画に基づき様々な事務事業を実施しています。

今回の点検及び評価は、第3次多治見市教育基本計画の体系に沿って実施し、本計画に掲げた具体的な取組内容及び成果目標について効果・検証しています。

施策Ⅰ

体力・学力を高める教育・保育の推進

Ⅰ 運動の楽しさを感じる取組の充実 (教育研究所) (子ども支援課)

● 事業内容

担当課：教育研究所
R5 予算額：308 千円
R6 予算額：1,506 千円

(1) 運動の楽しさを味わう機会の提供(ACP※、たじっ子CityCup等)

子ども達が「運動が好き・楽しい」と感じるよう、楽しみながら積極的に体を動かす「ACP」や、多治見市内の小・中学生等を対象に、多様な種目の記録をネットで登録して競い合う「たじっ子CityCup」を実施します。また、各種団体等と連携し、子ども達が体を動かしたりスポーツを体験したりする場を提供します。※ACP(アクティブ・チャイルド・プログラム)・・・子ども達が楽しみながら積極的に体を動かすプログラム

(2) 幼稚園・保育園での「いきいき運動遊び」の充実

幼児期には集団遊びやリズム遊び、サーキット遊び等、体を動かすことの楽しさを感じる取組を推進します。

(3) 豊かなスポーツライフの実現に向けた体育・保健体育等の充実

生涯運動に親しむ素地を育むため、体育・保健体育の授業や行事等で「運動が好き・楽しい」と感じるような活動を行います。

令和5年度取組・実績

<実施内容>

- ・養正小学校において、岐阜大学から講師を招聘し、児童向けにACPを実施しました。
- ・「たじっ子CityCup2023(縄跳び編)」を実施。延べ約4000人の児童、7チームの生徒が参加しました。
- ・各園において、「体力アッププラン」を作成し、意図的・計画的に「いきいき運動遊び」を実施しました。
- ・各小、中学校において、「体力アッププラン」を作成し、1年間を見通した実施計画を作成し、意図的・計画的に体力アップを図りました。
- ・夏休みに「運動遊び」に関わる研修を実施し、小学校・幼稚園・保育園から30名の教員が参加しました。



<主要な事業費(R5年度決算額)>

- ・体力向上トレーニング事業費 243 千円

成果・効果

- ・ACPについて、教職員に広めることができました。
- ・新規事業として「たじっ子CityCup2023(縄跳び編)」を実施し、多くの児童生徒が参加することができました。
- ・園児・児童生徒が「運動が好き、楽しい」と感じられる授業等を行うための研修を実施することができました。

令和6年度取組予定

- ・「たじっ子CityCup2024」として、種目等をさらに検討して実施します。
- ・「体力テストアプリ」を導入し、児童生徒の記録の集約等を行います。また、個に応じた運動の提案を活用できるようにします。
- ・教員研修を充実させます。

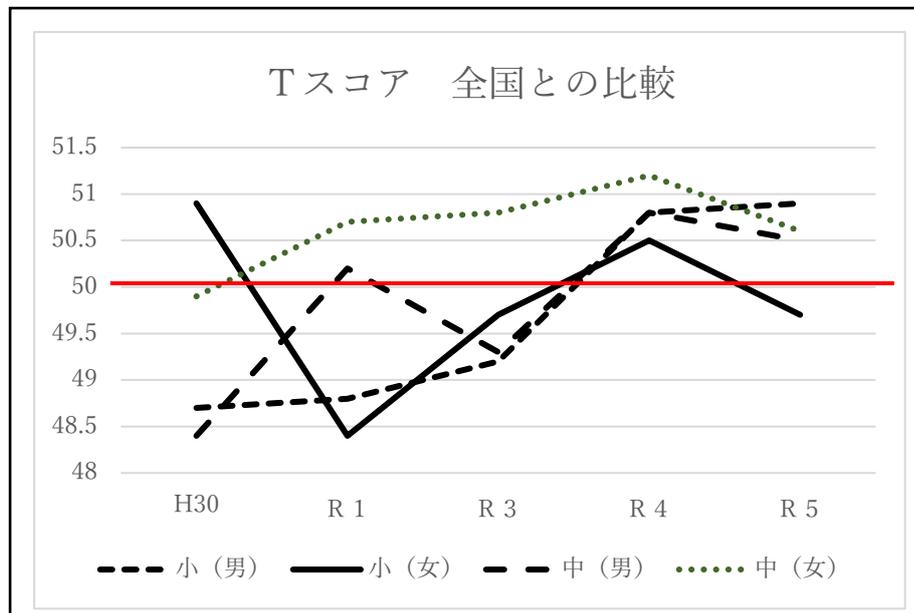
● 計画の成果目標

「運動やスポーツをすることが好きですか」の質問で「好き」「やや好き」と回答した割合 （「全国体力・運動能力、運動習慣等調査※1」の質問紙）				
基準値（令和4年度）		現状（令和5年度）		目標（令和9年度）
<市>	<国>	<市>	<国>	小・中学校、男女とも 全国平均を上回る
小学校(男) 91.1%	92.4%	小学校(男) 93.8%	92.9%	
小学校(女) 84.3%	85.9%	小学校(女) 82.8%	85.7%	
中学校(男) 85.4%	88.9%	中学校(男) 86.5%	89.4%	
中学校(女) 77.2%	77.3%	中学校(女) 72.6%	76.5%	

※1 全国体力・運動能力、運動習慣等調査・・・毎年実施される小学校5年生、中学校2年生対象の体力等の調査

全国と多治見市児童生徒のTスコア※2の比較 （「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」）		
基準値（令和4年度）	現状（令和5年度）	目標（令和9年度）
<市>	<市>	小・中学校、男女とも 全国平均を上回る
小学校(男) 50.8	小学校(男) 50.9	
小学校(女) 50.5	小学校(女) 49.7	
中学校(男) 50.8	中学校(男) 50.5	
中学校(女) 51.2	中学校(女) 50.6	

※2 Tスコア・・・全国平均値を50とした場合の尺度



2 主体的・対話的で深い学びの実現 (教育研究所) (子ども支援課)

●事業内容

担当課：教育研究所
R5 予算額：2,516 千円
R6 予算額：2,481 千円

(1) 集中力や自信を高める幼稚園・保育園の「いきいき遊び」の実施

幼児期から、物事に興味・関心をもったり集中力を育んだりするための「いきいき遊び」を実施します。「スピード・リズム・タイミング※」や様々な感覚を高める遊びを、各園で創意工夫して取り組みます。保育者の適切な認め励ましの中で、子ども達が自信を高めていけるようにします。

※スピード・リズム・タイミング・・・出題された絵に関する指示をテンポよく順番に回答する。

(2) 学ぶ意義や喜びを味わう授業の充実

主体的に学び続け、児童生徒が「学ぶことが好き」と感じることが出来る授業づくりを行います。また、ICT を効果的に活用し、個に応じた指導や学習方法の充実を図る「個別最適な学び」や、多様な他者と関わり合いながら高まる「協働的な学び」を推進していきます。

(3) 学力調査を活用した指導改善を図る学力向上推進研修会の開催

各学校では、学力調査等の結果からこれまでの指導の成果や課題を明らかにし、次への指導改善に取り組んでいます。学力向上推進研修会では、小学校から中学校まで継続して取り組むことを重点化し、子ども達が力を付ける授業づくりに生かします。

令和5年度取組・実績

<実施内容>

- ・各園で、創意工夫した「いきいき遊び」を実施しました。
- ・研修や訪問において、学ぶ意義や喜びを味わう授業について指導・助言を行いました。
- ・研究指定校（北陵中、根本小）の発表会において、「個別最適な学び」「協働的な学び」を通して児童生徒の「わかった」「できた」につながる授業づくりについて研修できました。
- ・学力調査の結果を分析し、校長会や学力向上推進会議で周知しました。各校では、実態や要因を分析し、学力向上指導改善プランを作成し取り組みました。



<主要な事業費（R5年度決算額）>

- ・学力向上調査研究事業費 2,410 千円

成果・効果

- ・園においては、「いきいき遊び」の時間や方法が定着しています。内容を工夫し、集中して元気に活動する園児の姿が見られました。
- ・全学校への訪問指導で、教科指導の重点について指導助言しました。
- ・各校で「学力向上指導改善プラン」に基づき、授業改善を図りました。「全国学力・学習状況調査」の結果を分析し、多治見市の傾向と指導の重点を周知しました。

令和6年度取組予定

- ・園においては「いきいき遊び」を継続します。
- ・効果的な研修、訪問事業を実施します。
- ・各種調査分析をもとに授業改善を推進します。

●計画の成果目標

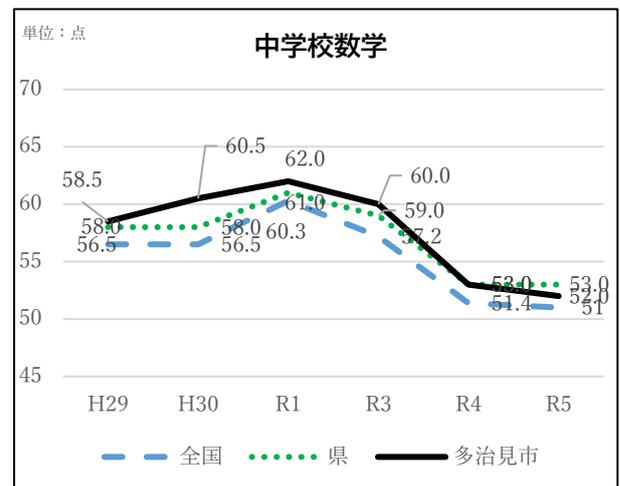
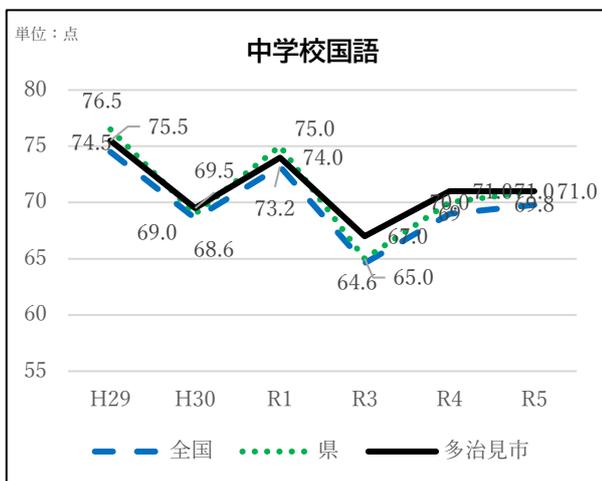
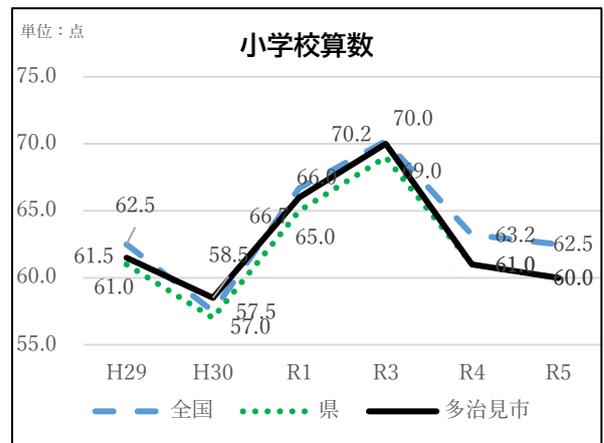
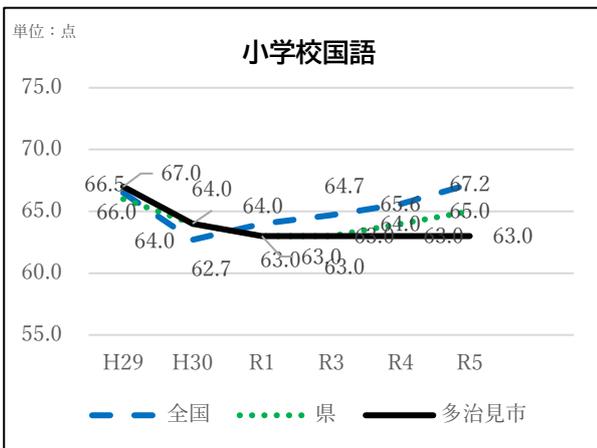
「教科の勉強は好きですか」の質問で「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合（「全国学力・学習状況調査※」の質問紙）

基準値（令和4年度）		現状（令和5年度）		目標（令和9年度）	
【国語】 <市>	<国>	【国語】 <市>	<国>	【国語】 <市>	
小学校 52.4%	59.2%	小学校 54.7%	61.5%	小学校 65.0%	
中学校 49.3%	61.9%	中学校 49.7%	61.4%	中学校 60.0%	
【算数・数学】		【算数・数学】		【算数・数学】	
<市>	<国>	<市>	<国>	<市>	
小学校 65.8%	62.5%	小学校 58.4%	61.4%	小学校 70.0%	
中学校 55.9%	58.1%	中学校 62.6%	56.7%	中学校 65.0%	

国語、算数・数学の平均点（「全国学力・学習状況調査」）					
基準値（令和4年度）		現状（令和5年度）		目標（令和9年度）	
【国語】 <市>	<国>	【国語】 <市>	<国>	小・中学校とも全国平均を上回る	
小学校 63.0点	65.6点	小学校 63.0点	67.2点		
中学校 71.0点	69.0点	中学校 71.0点	69.8点		
【算数・数学】		【算数・数学】			
<市>	<国>	<市>	<国>		
小学校 61.0点	63.2点	小学校 60.0点	62.5点		
中学校 53.0点	51.4点	中学校 52.0点	51.0点		

※全国学力・学習状況調査・・・毎年実施される小学校6年生、中学校3年生対象の学力等の調査

<全国学力・学習状況調査>



3 情報活用能力の育成 (教育研究所)

●事業内容

担当課：教育研究所
R5 予算額：403 千円
R6 予算額：1,061 千円

(1) 生きる力を育むデジタルシチズンシップ*教育の実施

児童生徒自らが情報に関する権利とその重要性を認識し、責任をもって適切に情報を扱い学習する姿勢を育成するため、デジタルシチズンシップ教育を推進します。

※デジタルシチズンシップ・・・情報技術の利用における適切で責任ある行動規範

(2) ICT教育推進員による児童生徒及び教職員への支援の実施

ICT教育推進員が各学校を巡回して授業支援や技術的な支援をします。特に小学校低学年への基本的な操作支援や、教職員への個別支援に重要な役割を果たします。

(3) 「学校情報化認定」基準に沿った情報化の推進

学校の情報化を促進するための指標として、日本教育工学協会が総合的に学校の情報化を進めたと認定する「学校情報化認定」において、「学校情報化優良校」の認定を受けることを推進します。

(4) 「ICT活用ガイドブック for Teachers」の活用

教職員のICT活用能力を高めるため、「ICT活用ガイドブック for Teachers」(令和3年度作成)を随時更新し、授業での効果的なICT活用を推進します。

令和5年度取組・実績

<実施内容>

- ・デジタルシチズンシップ教育について、学校や職務別部会で研修しました。情報モラル推進校を4校指定し実証検証を行いました。
- ・ICT教育推進員を4名(令和4年度は3名)雇用し、児童生徒、教職員への支援を手厚く行いました。
- ・「多治見市GIGAスクール活用推進計画」等を作成しました。
- ・ICT活用ガイドブックを令和6年度版に更新しています。(3月末完成)

<主要な事業費(R5年度決算額)>

- ・学校ICT活用推進事業費 210千円



成果・効果

- ・「学校情報化先進地域」の認定を受けました。

日本教育工学協会が主催(文科省後援)学校情報化認定において、令和4年度中に市内全小中学校が「学校情報化優良校」の認定を受けた。令和5年度は「学校情報化先進地域」認定を申請し、先進地域の認定を受けることができた。

評価された点は、教育委員会と学校が一体となって取り組んでいること、元学校管理職のICT教育推進員による学校のニーズに合った支援、デジタルシチズンシップ教育の推進などである。

<補足>

学校情報化優良校・・・「教科指導におけるICT活用」「情報教育」「校務の情報化」「情報化の推進体制」に積極的に取り組んでいる学校

学校情報化先進地域・・・自治体が管理するすべての学校が学校情報化診断システムに登録しており、学校情報化優良校が8割以上になった自治体で、審査により認定された自治体

令和6年度取組予定

- ・情報モラル教育指導計画に基づき、各校で計画的に取り組みます。

●計画の成果目標

「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の質問で「役に立つと思う」と回答した割合 （「全国学力・学習状況調査」の質問紙）		
基準値（令和4年度）	現状（令和5年度）	目標（令和9年度）
小学校 70.5% 中学校 62.0%	小学校 71.4% 中学校 66.3%	小学校 80.0% 中学校 70.0%

「学校情報化認定」で「学校情報化優良校」と認定された学校数		
基準値（令和4年度）	現状（令和5年度）	目標（令和9年度）
16校（R5.1.25現在）	21校（R5.3） 学校情報化先進地域に認定 （R6.1.2）	21校

4 食育による健やかな心身の育成（食育推進課）

●事業内容

担当課：食育推進課
R5 予算額：30,386 千円
R6 予算額：60 千円

(1) 安心・安全で魅力あるおいしい学校給食の安定した提供

安全な食材選びや、季節感のある行事食や郷土料理などを献立に取り入れ、手作りを大切にした安心・安全でおいしい給食を提供します。

令和5年度取組・実績

<実施内容>

- ・原材料やアレルギー及び食味を確認しながら、食材を選定しました。（毎月）
- ・季節感のある行事食や郷土料理などを献立に取り入れました。（毎月）
- ・カレーやシチューはルーから手作りする、汁物は料理に合わせて鰹、煮干し、昆布などの天然だしをとるなど、手作りを大切にした安心・安全でおいしい給食を提供しました。（毎月）
- ・調理員等を対象とした食物アレルギー研修、衛生管理研修を実施し、学校給食従事者の知識向上を図りました。（配膳員研修1回、調理員研修1回、アレルギー研修1回）
- ・食育推進委員会を開催し、学校給食における食物アレルギー対応について検討しました。（2回実施）
- ・新たに除去食対応を開始する学校、園、調理場において、体制構築を支援しました。（12校3園）

<七夕の献立>



<コロッケを作っている様子>



<主要な事業費（R5年度決算額）>

- ・物価高騰に伴う学校給食負担金 22,871 千円
- ・アレルギー対応調理器具等消耗品費 1,043 千円
- ・アレルギー対応用食器消毒保管機等備品購入費 1,287 千円

成果・効果

- ・食材費が高騰する中、献立や使用する食材を工夫し、栄養価を維持しながら給食を提供しました。
- ・食物アレルギーについて、学校給食従事者への情報提供や研修の機会を設けることで、知識向上や安全なアレルギー対応を行う体制づくりにつながりました。

令和6年度取組予定

- ・安全な食材選びを行い、衛生面にも配慮した安心・安全でおいしい給食を提供します。
- ・令和6年度から全ての園、学校で除去食対応が始まります。課題などの共有を行い、安全に除去食対応を実施できるよう、学校、保護者、調理場への支援を継続します。
- ・学校給食従事者に向け、知識及び技術向上のための研修会を開催します。

(2) 望ましい食習慣を身に付けるための学校・園での食に関する指導の充実

食に関する正しい知識や望ましい食習慣を身に付けるため、学校給食を「生きた教材」として活用することや食に関連した各教科の学習などを通して食育を積極的に実施します。

担当課：食育推進課
R5 予算額：115 千円
R6 予算額：115 千円

令和5年度取組・実績

<実施内容>

- ・学校給食を「生きた教材」として活用し、栄養教諭等による給食時間の指導や教科と関連した食に関する授業の実践を行いました。
(家庭科 57 回、学級活動 72 回、特別活動 2 回、その他科目 4 回、短学活 5 回)
- ・ICT を活用した食育動画の配信や、一斉放送を実施しました。
(給食時間の動画配信：6 回)
- ・野菜摂取量を計測できる機器を活用し、教科と関連した食に関する指導の実践を行いました。
(南姫小学校、昭和小学校、陶都中学校)

<栄養教諭等と担任が連携し授業を実施> <ICT を活用した減塩についての学年交流>



<主要な事業費（R5 年度決算額）>

- ・ベジチェック借上料 114 千円

成果・効果

- ・栄養教諭等が学校と連携し、学校給食を「生きた教材」として活用した授業の実践ができました。
- ・ICT を活用することで、食育動画の配信を市内や校内で統一した内容で実践できる体制ができました。
- ・野菜摂取量を数字で評価することができる機器「ベジチェック」を活用することで、児童生徒の興味関心がより引き出され、自らの食生活の振り返りや、目標立てについて主体的に取り組んでいる様子が見られました。

令和6年度取組予定

- ・学校給食を「生きた教材」として活用した給食時間の指導や教科と関連した食に関する指導などの実践を行い、学校と連携した食育を積極的に実施します。
- ・ICT や野菜摂取量を計測できる機器を活用した指導の充実を図ります。(機器の活用 (2 校))

(3) 地域への感謝の気持ちを育むための市内産農産物の活用

食に関する感謝の念や地域への愛着を育むため、学校給食の食材に市内農産物を活用します。

担当課：食育推進課
R5 予算額：1,300 千円
R6 予算額：1,338 千円

令和5年度取組・実績

<実施内容>

- ・市内産農産物を提供する「たじっこ給食の日」を実施しました。(11回)
- ・農産物の栽培の様子や、農家のコメントなどを、動画を用いて児童生徒へ伝えました。(3回)
- ・生産者を学校へ招き、給食時間に栽培の様子や苦勞、やりがいについて講話をしていただく機会を設けました。
- ・県・市の農政担当課と連携し、新たに学校給食へ納品していただける生産者の掘起こしを行いました。

<甘原町のいちごをジャムにして提供した献立>



<生産者を招いた給食時間の指導>



	農産物	使用月	メニュー名	産地または生産者拠点
①	いちご	6月	つづはらのいちごジャム	甘原町
②	たまねぎ(一部)	6月	たじみ玉ねぎの味噌汁	諏訪町 ほか
③	ピーマン(一部)	7月	たじっこピーマンと豚肉のカレー風味	諏訪町 ほか
④	ブロッコリー	11月	ツナと朝採りブロッコリーのマヨネーズ焼き	甘原町
⑤	大根	11月	たじみ大根の煮物	甘原町 ほか
⑥	米	11月	たじっこごはん	甘原町
⑦	トマト	12月	鶏肉のたじっこトマトソースかけ	姫町
⑧	米	1月	たじっこごはん	太平町 ほか
⑨	米	2月	たじっこごはん	大原町
⑩	トマト(予定)	3月	トマトのメニュー	姫町
⑪	米(予定)	3月	たじっこごはん	大原町

<主要な事業費(R5年度決算額)>

- ・学校給食地産地消推進事業補助金 1,163 千円

成果・効果

- ・「たじっこ給食」を実施することにより、市内で栽培される農産物や生産者について、児童生徒が知り、興味関心を持つ様子が見られました。
- ・学校給食へ納品していただける生産者が増えたことにより、たじっこ給食の実施回数が増えました。(令和3年度0回、令和4年度4回、令和5年度11回)

令和6年度取組予定

- ・地元農家、農産物直売所、JA、県・市農政担当課、栄養教諭等との連携、関係構築を継続します。
- ・年間スケジュールを作成し、計画的に市内産農作物を使用します。
- ・規格や数量を考慮した学校給食での活用法・献立を検討します。

(4) 家庭への食に関する啓発

SDGsの考え方を踏まえ、教育委員会、学校・園が連携協力して、子どもや保護者へ向けた食育講座を実施します。

担当課：食育推進課
R5 予算額：546 千円
R6 予算額：160 千円

令和5年度取組・実績

<実施内容>

・夏休み親子食育セミナー・お魚講座・中学生向け食育講座・伝承料理親子クッキング等SDGsの考え方を踏まえた食育講座を定期的実施しました。

・保護者向けの学校給食試食会および栄養講座を各学校や園にて実施しました。

(食育講座) 7回 186人

①	内容	期日	対象者	参加人数	内容
①	カゴメ(株)連携 夏休み食育講座	7月28日(金)	小学生親子	8組 18人	オムライス作りと、野菜の計量及びベジチェック体験、食育センター見学 講師：カゴメ(株)担当者
②	中学生向け 食育講座	8月5日(土)	中学生	5人	中学生に必要な栄養素や食事の摂り方と、簡単な調理実習 講師：名古屋グランパス栄養アドバイザー森裕子氏
③	保護者向け 食育講座	9月19日(火)	昭和幼稚園 保護者	15人	講話：「3つあればバランスOK! 成長期に必要な食事のそろえ方、野菜嫌い克服法を学びます」 講師：名古屋グランパス栄養アドバイザー森裕子氏
④	お魚講座 耳石ハンター入門	10月14日(土)	小学生親子	4組 8人	魚の種類によって異なる耳石を探す体験と魚からとっただしを使った味噌汁の試飲体験 講師：(一社)大日本水産会登録講師お魚マイスター神谷友成氏
⑤	中学生向け 食育講座	11月26日(日)	中学生	7人	中学生に必要な栄養素や食事の摂り方と、簡単な調理実習 講師：名古屋グランパス栄養アドバイザー森裕子氏
⑥	中学生向け 食育講座	12月13日(水)	南ヶ丘中 2年生	99人	講話：「3つあればバランスOK! 成長期に必要な食事のそろえ方、野菜嫌い克服法を学びます」 講師：名古屋グランパス栄養アドバイザー森裕子氏
⑦	親子クッキング	12月16日(土)	小学生親子	15組 34人	食生活改善推進員に教わりながら、初めてでも簡単にできる料理を親子で調理実習 講師：食生活改善推進員6人

(学校給食試食会) 18回 485人

	期日	対象者	参加人数	内容
学校給食試食会	6月29日(木)	市之倉小保護者	17人	栄養教諭講話と学校給食の試食
	9月8日(金)	笠原小保護者	24人	栄養教諭講話と学校給食の試食
	9月13日(水)	精華小保護者	33人	栄養教諭講話と学校給食の試食
	10月13日(金)	脇之島小保護者	31人	栄養教諭講話と学校給食の試食
	10月25日(水)	昭和小保護者	34人	栄養教諭講話と学校給食の試食
	11月9日(木)	北陵中保護者	22人	栄養教諭講話と学校給食の試食
	11月28日(火)	市之倉小保護者	18人	栄養教諭講話と学校給食の試食
	12月1日(金)	精華愛児幼稚園保護者	31人	栄養教諭講話と学校給食の試食
	2月21日(水)	昭和幼稚園 保護者	34人	栄養教諭講話と学校給食の試食
	2月22日(木)	明和幼稚園 保護者	22人	栄養教諭講話と学校給食の試食
	6月14日(水)	小泉小保護者	34人	森裕子氏栄養講座と栄養教諭等講話及び学校給食試食
	6月21日(水)	根本小保護者	31人	森裕子氏栄養講座と栄養教諭等講話及び学校給食試食
	7月5日(水)	南姫小保護者	19人	森裕子氏栄養講座と栄養教諭等講話及び学校給食試食
	10月25日(水)	滝呂小保護者	44人	森裕子氏栄養講座と栄養教諭等講話及び学校給食試食
	11月8日(水)	養正小保護者	21人	森裕子氏栄養講座と栄養教諭等講話及び学校給食試食
	2月21、26、27日	令和6年度新一年生保護者	55組 70人	小学校の給食や食育についての講話と試食

＜食育講座の様子＞



＜学校給食試食会の様子＞



＜主要な事業費（R5年度決算額）＞

- ・栄養講座・食育講座講師等謝礼金 520 千円
- ・食育講座食材料費 42 千円
- ・食育講座会場借上料 14 千円

成果・効果

- ・食育講座を実施したり、調理実習において市内産の農産物を活用することで、親子でSDGsについて学ぶ機会となりました。
- ・保護者向け学校給食試食会を実施し、学校給食の安全・安心のための取組みや、健康的な食生活について、食育を行うことができました。

令和6年度取組予定

- ・企業や団体と連携し、SDGsの考え方を踏まえた魅力ある食育講座を継続して実施します。
- ・PTAと連携し、学校給食試食会や栄養教諭等による講話を実施することで、保護者へ学校給食の安全・安心のための取組みを周知し、健康的な食生活について家庭で実践できるよう食育を行います。

●計画の成果目標

毎日朝ごはんを食べる子の割合		
基準値（令和4年度）	現状（令和5年度）	目標（令和9年度）
93.0% ※本務校7校のみの調査	83.1%	100%

アレルギー除去食対応校、園		
基準値（令和4年度）	現状（令和5年度）	目標（令和9年度）
42.3%（11/26）	61.5%（16/26）	100%

市内産農産物の活用回数		
基準値（令和4年度）	現状（令和5年度）	目標（令和9年度）
1回	11回	5回

子どもや保護者へ向けた食育講座の実施回数		
基準値（令和4年度）	現状（令和5年度）	目標（令和9年度）
3回	22回	8回

